



(公印割印省略)

平成31年1月9日

小郡三井医師会

会長 島田 昇二郎様

小郡市長 加地 良光

(健康課健康推進係)

大刀洗町長 安丸 国勝

(健康福祉課健康支援係)

健康増進法及び感染症予防法に基づく肺がん（結核）検診の
読影委託業務について

日頃より、小郡三井管内の保健衛生行政の運営にご協力いただきありがとうございます。

先日、健康診査委託業者である「福岡県すこやか健康事業団」から、現在使用している胸部レントゲン車（アナログ撮影対応車）の備品について、2019年1月以降部品交換修理が行えなくなる旨の説明がありました。（別紙参照）

業者によると、アナログ撮影対応の胸部レントゲン車の新規購入は不可能であり、小郡市・大刀洗町としては、次年度からデジタル撮影の胸部レントゲン車を使用する体制にしたいと考えています。

つきましては、撮影方法がアナログ撮影からデジタル撮影になった場合に、貴医師会に委託している読影業務の委託継続が、現行と同じ条件で可能であるかご見解を頂きたいと存じます。お忙しい中申し訳ございませんがよろしくお願いします。

<問合せ先>

小郡市子ども・健康部健康課健康推進係

担当：小堂 電話：72-6666

大刀洗町健康福祉課健康支援係

担当：渡邊 電話：77-2266

公益財団法人
福岡県すこやか健康事業団 御中



2017年12月
西日本エムシー株式会社
フィールドサービス課

KODAK X-OMAT 5000RA Processor 保守サービス終了後の
対応についてのご案内

TEL 092-413-1212
FAX 092-413-1220

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げますと共に、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

長年ご愛顧頂いて参りました下記の製品は、すでにメーカーの製造終了および販売終了してから8年が経過しており、今後機能維持に必要とする保守部品の供給が不可能となってきます。弊社と致しましては、昨今の著しい技術革新や急激な市況の変化の中で、部品の確保等のサービス業務維持に全力を尽くして参りましたが、このような状況の変化の中で部品の確保が非常に困難となるため、仕入れのできない部品により、お客様に多大なるご迷惑をおかけすることが予測されます。

つきましては、今後充分なサービスサポート業務のご提供が困難なため、2018年3月末日を持ちまして、保守契約をご締結いただいておりますお客様におかれましては、当該契約のご解約をお願い申し上げます。

尚、それ以降につきましては、2018年12月末日までスポット点検＋スポット修理という形でサービスを提供させていただきます。この料金に関しましては、別途ご案内させていただきます。

又、2019年1月以降につきましては、部品の交換を含まない修理に関しましては、対応させていただきますが、部品の交換を伴う修理に関しましては、対応できない場合がございます。

甚だ勝手ではございますが、諸般の事情ご勘案の上、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも格別のご高配を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

— 記 —
(対象機器)

KODAK X-OMAT 5000RA Processor
5000RA INTEGRATED CHEMICAL MIXER (付属ケミカルミキサー)
AUTOMATIC FILMEFEEDER MODEL RA (付属オートフィーダー)
AUTOMIXER 2 PLUS (付属ケミカルミキサー)

1. 直接撮影とは

人体を透過したX線は吸収の度合いに応じて、増感紙（蛍光体でX線を吸収すると緑色や青色を発する）を発光させ、増感紙に挟み込まれたフィルムにX線像が写される。蛍光体とフィルムが直接密着しているため直接撮影といわれている。フィルムには実物大のX線像が写る。

2. 間接撮影とは

人体を透過したX線は吸収の度合いに応じて、蛍光板に可視光としてX線像を結像させる。これを離れた位置からカメラ（ミラーやレンズ）で撮影する。蛍光体とフィルムは離れているので、間接撮影といわれている。フィルムには縮小された像が写る。フィルムは1コマが100ミリ×100ミリになっている。

主な違い

- ・X線被ばく線量が間接撮影のほうが多い（直接撮影と比べて約1.5倍ほどといわれている）
- ・間接撮影は像が拡大する為、ゆがみ等が生じ、またカメラによる撮影の為解像度（写真上の鮮明さ）が低下しやすい。その点デジタル撮影においては、デジタル処理により画像を最適化することができる為、常に安定した精度の高い画像を提供することができる。
- ・デジタル撮影は、瞬時に現場にて画像の確認を行うことができるので、再撮影を行うことがない。
- ・質の高い読影を行うには、過去の画像との比較読影が必須となるが、デジタル画像では読影専用の高性能のモニターにて読影を行っていることに加え、画像専用の大容量のサーバー（画像データを保管する場所）に保管しているので、容易に比較読影や、画像の保管を行うことができる。

いずれにせよ、間接撮影に必要な機器の製造は平成27年をもって部品製造が中止となっており販売されていない。また、加えてフィルムを現像する機器（自動現像機）も平成30年12月をもって部品供給が中止となる。いずれはフィルムの販売も中止となる方向で各X線機器メーカーは動いていく。今後は、加速度的にX線機器はデジタル化が進んでいく。